

<公民>

自己の「在り方生き方」を考える力を育成する指導の工夫 — ダイヤモンドランキングを活用し多様なものの考え方を理解することを通して —

沖縄県立西原高等学校教諭 山城 千鶴

I テーマ設定の理由

グローバル化や価値観の多様化が進み、科学技術の進展も著しい現代の社会において、私達はこれまでの社会生活の中では想像し得なかった倫理的諸課題に直面している。生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉など、人間としての在り方生き方に深く関係するこれらの課題について、「倫理」では、今を生きる私たちが考えていかなければならないとされている。

中央教育審議会答申（平成20年1月17日）では社会科、地歴・公民科の課題として、「主体性を持って社会に積極的に参加し課題を解決していくことができる力を身に付けさせる」ことの重要性が指摘されている。これは、社会科、地歴・公民科の各科目に、一人一人が社会に積極的に関わっていくことによって、人間尊重の精神が培われよりよい社会を形成するための重要な役割が与えられていると考えることができるのではないだろうか。またこの答申をうけて平成21年改訂の高等学校学習指導要領では「倫理」の目標を、「人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、（中略）他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる」とある。特に、現行の学習指導要領における「倫理」の目標から今回新たに追加された「生命に対する畏敬の念」と「他者と共に」という表現は正に、生徒一人一人が豊かな人間性を備えるための道德教育の必要性、生きる主体として自己と他者を尊重する態度を育成することの重要性を示しているのではないだろうか。

しかし、これまでの授業を振り返ると、社会的事象を理解することや語句を覚えることに重点が置かれ、学んだことが単なる知識ではなく、生徒自身の現在や未来とどう関わっているのかという発展的な学習がおろそかになっていた部分があり、中央教育審議会答申が指摘していることを身に付けさせる授業が十分にできているとはいえない現状がある。授業も講義中心の授業になることもあり、受け身的な生徒もみられる。生徒の話聞いても、「倫理」がこれまで学んできた地歴・公民科の科目と異なり、先哲が社会や人間について「考えた」ことを中心に学ぶため、先哲とその思想を説明している語句を覚えることが中心の科目であると認識していて、テストや授業時の教師から語句の意味を問えばある程度答えられるものの、学んだ思想と現代の社会との関連性や自己の生き方との関わりなどの問いかけには答えられない現状がある。

そこでまず、あるテーマに関連した課題や原因等を記したカードを、生徒自身やグループで考え方に最も近いものから順位付けをし、自分の考えを説明する力や他者の考えを理解する力を育成するダイヤモンドランキングを活用し、活動に必要なカードの作成や個人・グループでのランキングの発表を行う授業を手がかりにして、生徒は多様なものの考え方があることと、それらの考え方をお互いが理解し合うことの重要性を理解する。更に学習した内容を深化させるために、「現代の諸課題と倫理」の単元で取り上げられているいくつかの課題についての意見をまとめることで、実社会との関連化が図られ、自己のこれからの生き方について考える力が育成されるであろうと考え、テーマを設定した。

<研究仮説>

「現代の諸課題と倫理」の単元で取り上げられている課題について、ダイヤモンドランキングを活用し、意見をまとめる学習を授業に取り入れることで、多様なものの考え方があることを理解し、現代社会における諸課題と自己の「在り方生き方」について考える力が育成されるであろう。

II 研究内容

1 自己の「在り方生き方」を考える力を育成する授業について

(1) 「在り方生き方」とは

中学校学習指導要領社会科では「人間としての生き方についての自覚」や「自己の生き方」等、「生き方」という表現はあっても「在り方」までは触れられていない。しかし、高等学校学習指導要領では、「生き方」に加え「在り方」という表現が出てくる。広辞苑では、「在り方」の意味を、

(2) 自己の「在り方生き方」を考える力を育成する授業の視点

平成21年改訂の高等学校学習指導要領にも「人間としての在り方生き方についての理解と思索を深める」とされているにも関わらず、「倫理」の授業はともすると知識の習得に重点がおかれがちになる。それはこれまで学んできた

表1 自己の在り方生き方を考えるための授業の視点

表1 自己の在り方生き方を考えるための授業の視点

倫理の内容	教材（授業）の視点
(1)現代に生きる 自己の課題	・ 自らの体験と関連づけて、人間としての在り方生き方について考えさせる。 ・ 生徒の関心をとらえ主体的な課題追求と社会の一員としての生き方の探究を促すようにする。
(2)人間としての 在り方生き方	・ 源流思想を手がかりとして、生徒の判断基準・人間観・世界観を振り返り、在り方生き方について思索を深めることができるように、先哲が何を課題とし、どのような答えを見出しているかを明確にする。
(3)現代と倫理	・ 現代の諸課題と倫理について、様々な意見があり異なった立場が存在するという前提の中で自己の在り方生き方についての自覚を深めさせるようにする。

2 公民科における倫理的諸課題とは

「現代と倫理」では、人間の尊厳や社会の在り方、自然や科学技術と人間の関わり、自由や幸福についてなどが取り扱われ、現代に生きる人間として基本的課題が何であるかを考えさせることが求められている。その中でも現代の諸課題と倫理の単元において取り扱われる内容は「生命（生命の誕生、老いと病、生と死の問題）」「環境（環境汚染、環境破壊、資源問題）」「家族（家族の役割、夫婦関係、親子関係）」「地域社会（子育てや介護を支える場とし

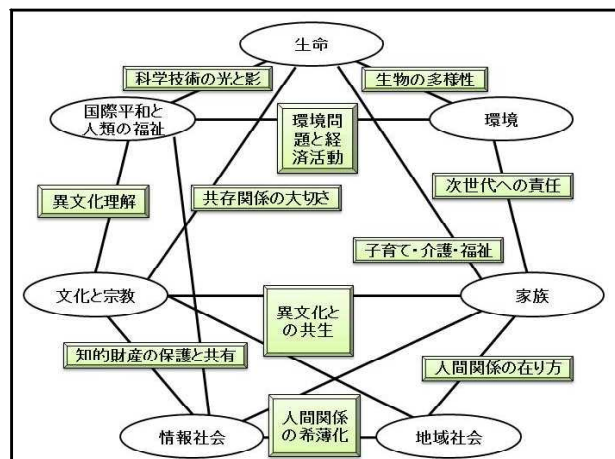


図1 倫理的諸課題の関連性

ての地域社会、新しいまちづくりなど)」「情報社会(情報ネットワークによる人間関係の広がり、直接的な人間関係の希薄化、知的所有権の保護など)」「文化と宗教(異文化理解と共生、宗教対立、文化摩擦など)」「国際平和と人類の福祉(国際平和の希求、世界の中の日本人の在り方生き方、国際協力など)」である。これらの課題は、図1のように相互に関連しあっていることから、一つの課題を取り上げ論述や討論をする際には、別の視点から考えてみることを促す必要がある。また、答えも一つとは限らず複数存在する場合もあるため、「是と非」、「可と不可」といったどちらかの結論に結びつくような議論に陥ることがないように留意する必要がある。

(2) 倫理的諸課題を通して、自己の「在り方生き方」を考える過程

自己の「在り方生き方」を考えるためには、生徒の成長の段階に応じた指導が重要であると考えられる。表2で示したのは一般的な学校段階における成長過程の特徴であるが、中学校までは自分と対象となるものについて「意味」を理解し「気付く」ことが求められ、高等学校ではそれを踏まえた上で「どのように生きる」かが求められている。

表2 一般的に見られる子ども達の成長の過程における主な特徴

学校段階	成長過程における特徴
小学校	・低学年では言葉と認識の力が広がり、反具体物を使って抽象的に考えていくことが多少は可能になる。 ・中学年以降は、自分のことも距離を持ってとらえられるようになり自分と対象とのかかわりが新たな意味をもつようになる。
中学校	・未熟ながらも大人の社会とかわる中で、大人が自分の世界を持ちながらも社会で責任を果たしていることへの気付きが広がる。
高等学校	・思春期の混乱から脱しつつ、大人の社会を展望するようになり、自分は大人の社会でどのように生きるかという課題に出会う。

南浦涼介(2011)は、学びを「可視化」し他者との「対話」を通して自分自身の考え方を「振り返る(内省)」ことで、生徒の社会認識が深まるとしている。この考え方は高等学校の授業にも当てはめることができるのではないかと考える。それは社会に対する認識を深めることは、実社会で起こる社会的現象についての関心が高まることで、関心を高めることができれば、社会に踏み出す手前にいる生徒たちにとって、学んだことが単なる知識として終わるのではなく、自分の「在り方生き方」と深く関わっているのだという実感をより強く持つことができるからである。また、南浦は、社会認識を深めるためには「他者との対話活動」が重要であると述べている。これを今回の研究に当てはめて考えると、生徒はそれぞれの

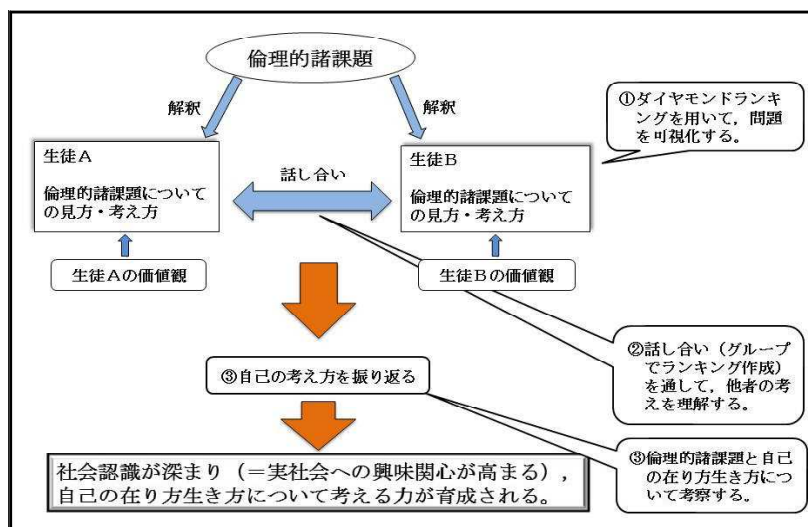


図2 在り方生き方考える力を育成するモデル

価値観に基づいて倫理的諸課題を解釈する。そして、生徒が相互に自分の価値観から判断したことについての意見交換や議論を行うことで、自分と違う価値観に触れ自分の考え方を捉え直しより深めていく。そのことで、社会に対しての認識が深まるとともに自分自身の考え方を見つめ直すことができるのではないかと考える(図2)。

3 ダイヤモンドランキングの活用

ダイヤモンドランキングとは、自分の考え方を大切にし、なおかつ他者の考えを知ることで互いの意見の共通点や違いを認め共有することができる参加型学習法の一つである。その特徴は、1位から9位の単純な順位付けではなく、2位から4位に複数の解決策や課題、原因等をカードに記し、重要度や必要に応じて順位付けをするという点にある。これにより、同順位は同じ価値を持つものとするすることで、1位から9位の単純な順位付けに比べ上位と下位の比較が容易になり考えを大まかに整理することができるのである。前述したように倫理的諸課題は相互に関連し合っているため、上位や下位の判断を簡単につけることが難しいことから、複数の解決策や課題をおくことができるダイヤモンドランキングは有効な手段であると考えられる。また本研究は、他者と共に生きる主体としての自己の

「在り方生き方」を考える力の育成を目的としている。同じランキングカードを使っても価値観の違いで全く違うランキングができあがることになるため、ランキングをつくりグループ内で説明し合うこと、そしてグループで一つのランキングを作る過程を通して、他者の価値観を理解することや自分の価値観を理解してもらうことの重要性を生徒達の実感できるのではないかと考える。また、自分の順位を他者に説明し理解してもらうためには、自分の考えを整理し解りやすい表現をすることが求められるため、思考力や表現力の育成も図ることができるのではないかと考える。

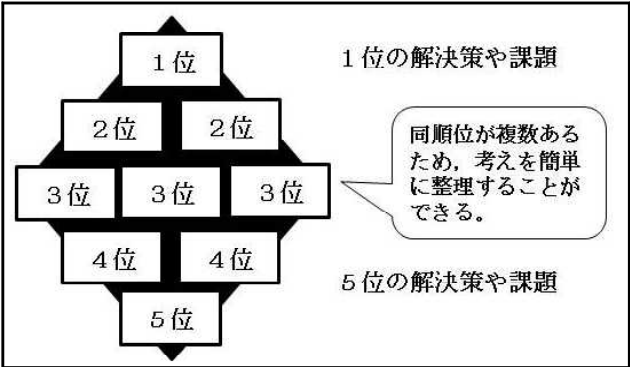


図3 ダイヤモンドランキング

Ⅲ 指導の実際

1 単元名 第5編「現代の諸課題と倫理」

2 単元の目標

- (1) これまでの学習で学んだことを踏まえ現代の倫理的諸課題について考えることで、課題を積極的に解決していくための能力を育てる。
- (2) グローバル化した社会での生き方を考えさせ、多面的なものの見方の必要性について理解させる。

3 評価の規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める意欲をもち、現代の諸課題について考えようとしている。	現代の諸課題について多面的・多角的に考え、広い視野に立って判断することができる。	自分の在り方生き方について主体的に考え、現代の諸課題について考えたことを適切な方法で表現することができる。	現代社会で起こっている課題についての基本的な知識を持ち、自己の生き方とつなげて理解している。

4 指導計画（全6時間）

	学習内容	学習目標	評価の観点
1	ダイヤモンドランキングについて	・ダイヤモンドランキングの特徴を理解する。	【関・意・態】ランキングを作成するという活動を通して、これからの授業への関心を高め取り組んでいる。
2	生命と環境について	・「自然の支配」という発想から、「自然と調和し、共存する」という発想への転換の必要性を理解する。	【思・判・表】環境問題を考察した上で、自分自身の生き方や考え方について広い視野に立って考えることができる。
3	家族と地域社会について	・高齢化の進行、地域社会の変容など現代社会の課題をふまえ、家族や地域社会の在り方について自分なりに考える。	【思・判・表】家族の問題や地域社会の変化から自分の生き方について考え、家族や地域社会の在り方について広い視野に立って考えることができる。
4 本時	異文化理解と人類の福祉について	・「共生」という理念について理解し、地球市民の一人として多様な異文化を共感とともに受け止めさせ、共生の方向を考える。	【思・判・表】異文化の理解や国際協力について考え、広い視野に立って考えることができる。
5	現代の諸課題と倫理についてのまとめ1	・学んだテーマを取り上げ、意見をまとめる。	【知・理】この単元で学んだことを踏まえ、取り上げたテーマと自分の将来の生き方を関連させて考えることができる。
6	現代の諸課題と倫理についてのまとめ2		【技】この単元で学んだことを踏まえ、自分の将来について文章で適切に表現できる。

5 本時の指導（4／6）

(1) 本時の目標

人類の共存・共生という理念を実現するために、私たちが具体的にできることとは何かを考える。

(2) 本時の仮説

異文化理解と人類の福祉の単元において「差別や貧困、格差など様々な課題がある現代の世界で、私たちに求められているものは何か」というテーマについて個人やグループで順位付けをし発表し合うことで、多様なものの考え方があることを理解する力が育成されるであろう。

(3) 本時の展開

過程	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 10分	出欠確認 今日の授業について	テーマを写し、教師の説明を聞く。 テーマ 「差別や貧困、格差など様々な課題がある現代の世界で、私たちに求められているものは何か」	授業のテーマを板書し、教科書を読ませ、取り扱う範囲の確認をする。	
展開Ⅰ 10分	自分の価値観に基づいてテーマを解釈しランキングを作る	(個人の活動) テーマについてワークシートを使ってランキングをして、理由を書く。 カードはC・F班が作りました 今日のテーマ：2 人類の福祉（p201～203）から 差別や貧困、格差など様々な課題がある現代に私たちが求められているものは何か？ 【STEP1】あなた自身のランキングを作ってみよう！	順位の理由を書くことは自分の考えを整理し相手へ説明することも簡単になるため、きちんと書いているか確認する。	【関・意・態】 【思・判・表】
展開Ⅱ 15分	自分の価値観を理解させ、他者の考えを理解するための話し合い活動	(グループの活動) 班に分かれ、テーマについて互いの考えを聞きながら一つのランキングを作る。	司会者・記録者・発表者決める。 ランキングには正解・不正解はないため、相手の考えを否定する話し合いにならないように意識させる。 自分の考えを理解してもらい、他の人の考え	

			方を理解することが、グループ内でまとめるために大切であることを意識させる。	
展開Ⅲ 10分	他のグループの発表を聞き、多様なものの考え方があることを知る	(グループの活動) 作ったランキングを発表する。 (個人の活動) 自分の班との違いや感じたことをワークシートに書く。	他のグループの発表を聞いて、自分がどう感じたのかを書くのが生徒には難しいと思われるため、時間をとる。	【関・意・態】 【思・判・表】
まとめ 5分	自己評価	(個人の活動) ワークシートのSTEP4の授業の感想とSTEP5の自己評価を記入する。		

(4) 本時の評価

①生徒評価の観点

関心・意欲・態度	テーマに対し関心を持ち、順位をつけた自分なりの理由を持っている。
思考・判断・表現	テーマについて多角的に考え、グループのランキングを作ることができた。

②教師の自己評価

目標に準拠した評価	提出したワークシートをもとに、生徒自身の授業への取り組みと単元の指導目標の達成度を分析し、次時の取り組みに活かす。
指導と評価の一体化	生徒の授業への取り組み状況と生徒の自己評価を総合して指導方法を見直す。
評価方法の工夫・改善	客観性があり信頼性の高い評価方法を工夫する。

6 仮説の検証

研究仮説に基づく本研究では、「現代の諸課題と倫理」の単元で上げられている課題について、自分の考えを説明し、他者の考えを理解する力を育成する活動を行い意見をまとめる学習によって、多様なものの考え方があることを理解し、現代社会における諸課題と自己の「在り方生き方」について考える力が育成されたのかを、「ダイヤモンドランキングの活用によって生徒の意識がどう変わったのか」と「意見をまとめる学習によって自己のこれからの在り方生き方についてことができたのか」の二つの視点から検証していく。検証の方法は、事前と事後のアンケートや授業時のプリント、また生徒が作成した意見文で行う。

(1) ダイヤモンドランキングの有効性について

ランキングをするためのカードを作成し個人・グループでそれぞれのランキングを作成することを通して、「多様なものの考え方を知ること」や「互いが理解し合うこと」ができたのかを検証する。

① ランキング用のカードの作成

単元の導入部分でクラスをグループに分け、授業で取り上げるテーマに基づいたランキング用のカードを作成するために話し合い活動を行った。図4で示した手順を用い、グループの話し合いでテーマを決めることで意識付けをし(STEP1)、テーマについて自分で問題点を捉え(STEP2)、グループ活動でその問題点を話し合い書き出していく(STEP3・4)。最終的には書き出したものをグループ化した後、生徒同士で話し合いランキングカードに書く内容を決めてもらう(STEP4)ことで、現代社会における諸課題が身近なものであるとの意識付けができ、多様なものの考え方を理解し合うきっかけがつけられるであろうと考えたからである。

生徒からは、「話し合いをしたことで現代社会で問題になっていることについての解決策など

多くのアイディアを思いつくきっかけになった。」「今まで意識して考えたことがなかったことまで考えることができた。」「話し合いを通して多くの意見がでてきて、自分の考え方が少し変わってきたところがあった。」「これからの将来について考えるいい機会になった授業だったと思う。」などの反応があった。このことから、これから学ぶ単元において生徒自身で問題点を見つけることが、これまでの生活の中で意識することのなかった現代社会が抱える諸問題について考えるきっかけとなり、解決策や課題を出し合いその中からカードを作成するため

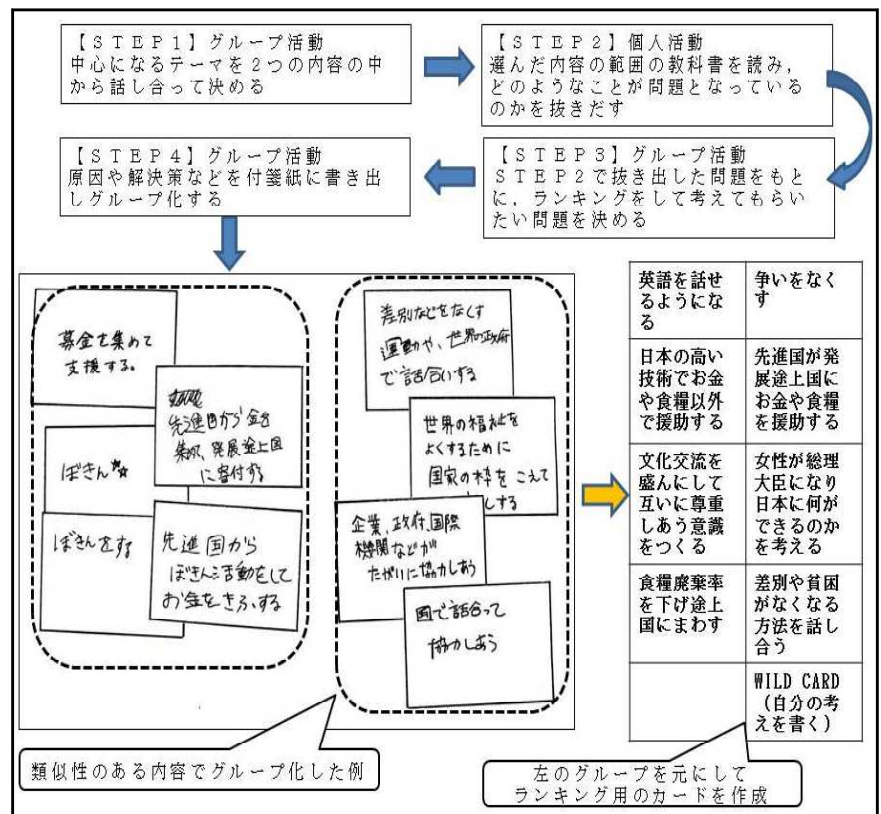


図4 多様なものの考え方を理解し合うためのきっかけをつくる手順

ために話し合い活動を行うことが、互いの考え方を理解し合うことの大切さや、倫理的諸課題が生徒自身のこれからの生き方と関連しているのだという「意識付け」ができたのではないかと考えられる。

② 個人やグループでのランキングの作成の有効性

生徒が作成したランキングカードを用いて、第1章「生命と環境」の小単元から「環境倫理」を取り上げ、「自然環境に優しい生活をするために大切なことは何だろうか」をテーマに、第2章「家族・地域社会と情報社会」の小単元から「現代の家族とその課題」を取り上げ、「少子高齢社会の要因として最も考えられるのは何か」をテーマに、第3章「異文化理解」の小単元から「人類の福祉」を取り上げ、「差別や貧困、格差など様々な課題がある現代の世界で、私たちに求められているものは何だろうか」をテーマにしてそれぞれ9枚のランキングカードを作成した。この3回の検証授業において、授業で生徒達がカードを使って個人でランキングを行ったことについてのアンケートの結果と感想を図5と表3に示した。94.1%の生徒が考えを整理するのに「とても役に立った」「役に立った」と答えており、感想にもあるように多くの選択肢の中から自分の考えに近いもの、遠いものとしてランク付けをすることで、テーマに対する自分の考えを容易に把握することができたのではないかと捉えることができる。

また、図6のようにランキングを使って自分の考えを相手に説明することが「できた」

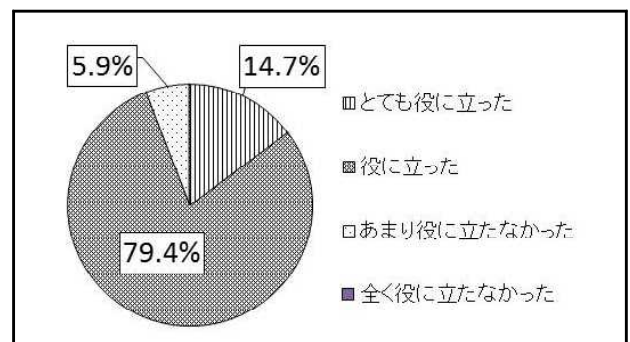


図5 ランキング付けは考えを整理するのに役立ったか (N=34)

表3 ランキング付けに対する生徒の感想

- 日に見える形にして分かりやすい。
- たくさんの要因がある中で、何が一番大事なのか知った。
- 自分が今何を考えているのか自分で把握することができた。
- 自分の考えを整理するいい機会になり、いろいろな考えさせられた。
- 見やすく自分の考えをはっきりさせることができた。

「どちらかというときできた」と感じている生徒は事前では54.6%，事後では58.8%と増加が4.2ポイントとわずかであった。しかし、相手の考えを理解することが「できた」「どちらかというときできた」と感じている生徒が、78.8%から88.2%と9.4ポイント増加していることが、図7のアンケートの結果から読み取ることができる。特に「できる」と答えた生徒が42.4%から52.9%と10.5ポイント上昇する結果となった。これは、自分では意識をして説明してはいないが、説明を受ける側の生徒が相手の考えを聞き理解しようとする意識の現れであるとうかがえる。生徒からは、「相手との問答で更に自分の分からなかったことも見えてきた」「自分の意見だけでなく、周りの意見も取り入れ考えていくことは良いと思った」等の感想があり、相手の説明を聞こうとすることがテーマに対して自分の考えを深化させることに気付いた様子であった。

次に、グループで一つのランキングを作る活動がお互いの考えの理解に役に立ったかという問いに対して、97.1%の生徒が「とても役に立った」「役に立った」と感じていることがわかった（図8）。表4はその主な感想であるが、多様な意見の中から9枚のカードを作るためにグループで話し合うことを通して相手の意見を理解し、自分の考えについて深く考えることができた生徒も見られることから、この方法が有効であったと考えることができる。

図9と表5は、第2時から第4時までにランキング付けを行った授業が第5時と第6時の授業で行った「意見をまとめる学習」への手がかりとなったかを見るためのものである。「ランキング付けは取り上げた単位について関心を高めるきっかけになったか」という問いかけに対して、「とてもなった」「なった」と答えた生徒が88.2%であった。つまり、この活動が倫理的諸課題に対して、生徒なりにきちんと向き合い、「自分はどうか考えているのか、またどうすべきか」という生き

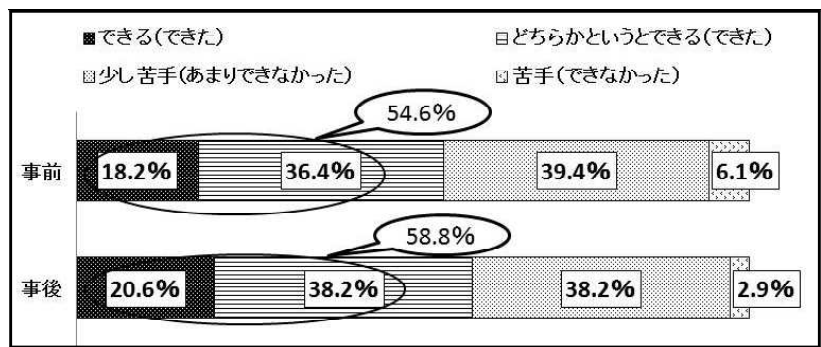


図6 順位付けの理由を相手に説明することができるか
(できたか) (事前N=33/事後N=34)

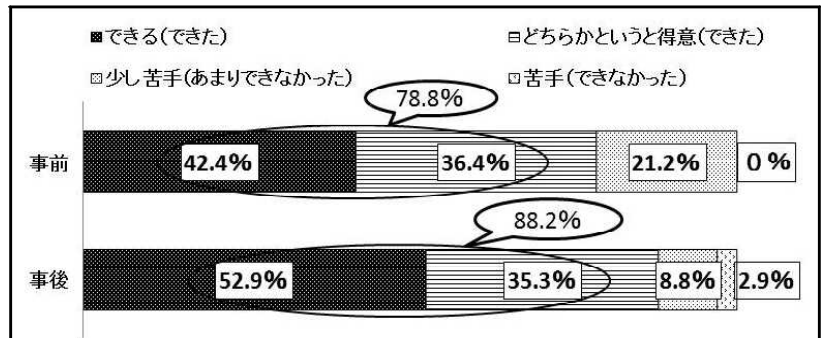


図7 相手の考えをしっかりと聞くことはできるか
(できたか) (事前N=33/事後N=34)

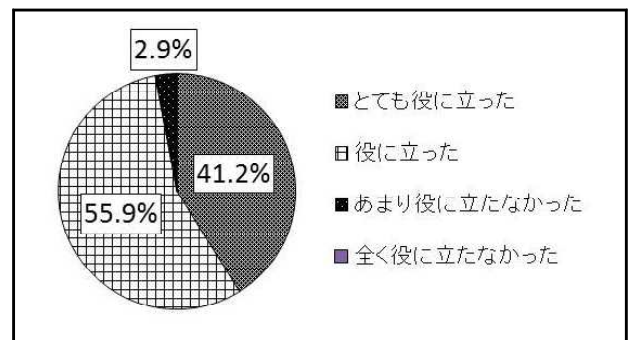


図8 ランキングを作ることは互いの考えを理解するのに役立ったか (N=34)

表4 グループ活動の感想

- みんなで一つの問題を共有できた。
- みんなの考え方を知るいい機会になり、自分も勉強になった。
- 自分の意見を通すことだけでなく相手の意見を聞くことで考えが変わったりするので相手の意見を聞くことは大事だと思った。

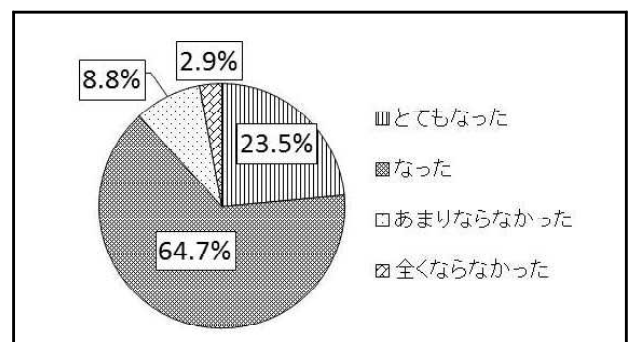


図9 ランキング付けは取り上げた単位について関心を高めるきっかけになったか (N=34)

方を考えることができるようになったのではないかと捉えることができる。

(2) 自己の「在り方生き方」を考えるための意見文の作成について

『高等学校学習指導要領解説公民編』では、倫理的課題を探究する学習を通して「積極的にこれらの課題に取り組んで生きる態度を育て、(中略)現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を目覚めさせることを目指す」とされている。これは、「倫理的課題を探究することが、(中略)どのような社会を形成していくかということと密接に結び付いている」ためであり、結び付けるためには「現代の倫理的課題の中から課題を設定し、生徒が主体的に課題を探究する学習を展開する」ための工夫が必要であるとしている。そこで、自らの「在り方生き方」について考える手がかりとしたこれまでの活動をより具体的なものとするため、第2時から第4時の授業で取り上げた3つのテーマから2つ選び意見文を書く取り組みをした。その中から2人の意見文を図10に示している。生徒Aは「環境倫理」について、生徒Bは「異文化理解と共生について」をそれぞれ選び、自分の生き方を踏まえ、何をしたいか、何ができるのかを書くことができています。加えて、60%近くの生徒の意見文からも、自分が選んだテーマについて社会はどうあるべきか、自分なりにどうしたいのか、といった社会の中で生きる自分自身について考えていこうとする記述を見取ることができた。生徒から「自分のやるべきことが具体的になった」「これからの自分の将来をよく考え、今起こっている現状を知っていきたい」「自分がこれからできることを見つけることができた」等の感想があり、ランキングをしたことにより自分の考えがより具体的になり、まとめとして実施した意見文作成が、自分のこれまでの生き方を振り返り、これからの在り方について積極的に考えることができた

表5 意見をまとめる学習をしたことに対する感想

- 関心がなかったけど持つようになった！
- 今自分が何をすべきかを考えるよいきっかけになった。
- みんなで意見を出し合ってテーマについて深く考えることができたから。
- ニュースや新聞の話だと思っていたけど、関心を持つようになった。

図10 まとめの意見文で見られたこれからの生き方についての表現

生徒Aの意見文	生徒Bの意見文
その事もあるのだ。これから自分はゴミに 対してもっと意識を傾けようと思います。今 までは何も考えずに買っていたものも沢山あ るのだ。これから、買ってから捨てるの いうことを考えて買いたいと思います。 1人1人が自分な何かをするのも良いと思いま すが、政府や地自治などの団体活動を始めたら し加その人たちは意識したいと思います。 ゴミ収集の料金を高くすれば、ゴミは捨てる ということが出来ないので、みんな意識せ ざるを得ないと思います。 これから同じ活動しているから自分も参 与してはやく自分や自分たちも活動してい るから同じ活動の形にしていきたいと思います。みんな がこう言う形になれば世界は変わるのだと。	思っている。将来そのような事が多く起こら ないように私は、小さな争いを止めていきたく いと思っている。止める事はとても、勇気の いる事だと思う。私もこれから争いをなくせ るように、勇気を持って行動していきたい。 そのような人達が増えれば、世界規模で考え られている問題もなくなっていくのではない かと、考えている。 私はこれから、大人になろう。そうい う事を今のうちから、深く考えていけば将来 そういう争いが起きるような問題は起こらな くなり、世界中の人々が平和で平等に生きて いけると思う。そういう世界を目指して、私 は今の現代を生きていきたい。
授業で取り上げたテーマについて、自分のこれまでの 行動を振り返り、これから自分なりに問題について 関わっていこうとする記述が見られた。	取り上げたテーマについて、「争いをなくしていくこ とが大切だ」という内容で意見文を書いた。これに対 し、自分はどのようにしていきたいのかを考えている記述が見 られた。

(3) アンケートからの考察

事前に行ったアンケートでは、72.7%の生徒が倫理の授業が嫌いだと答えていた(図11)。その理由としてあげていたのは「話が難しくて普段の生活では使わないから」や「自分の生活(将来)にどう役立つのか分からない」「昔の人のことを学んでも、あまり役に立たないと思う」等であった。

しかし、図12の事前のアンケートでは半数近くの48.5%の生徒が倫理の授業は何らかの形で役に立つと考えており、検証授業後のアンケートでは85.3%と約2倍に増えていることがわかった。これは、今回の授業で生徒達が取り組んだランキングで取り上げるテーマやランキングカードに書く内容を自分たちで決めた活動によって倫理的諸課題についての理解を深めることにつながり、結果として自分の生活に関係しているものであるということを感じることができたためだと捉えることができる。また、話し合い活動を通して自身の考えを深めることができると考えている生徒が、97.0%いることも図13の結果から読み取ることができる。これも、自分の意見や感想を述べ他者の意見や感想を聞くことが、授業で学ぶ内容が自分自身の生活（人生）に関係のあることだということを実感してもらう、つまり倫理を身近に感じてもらうのに適した手立てであったと考えられる。

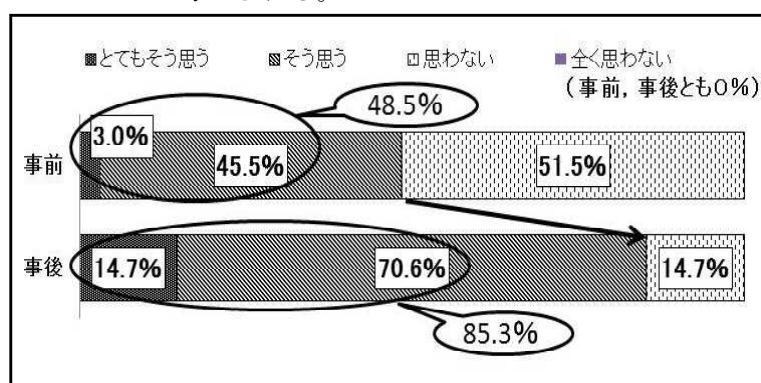


図12 倫理の授業は役に立つと思いますか
(事前 N=33 / 事後 N=34)

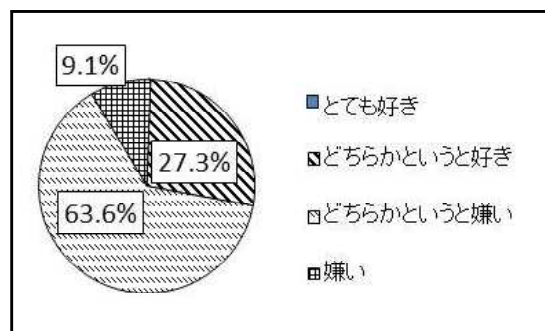


図11 倫理の授業は好きですか (N=33)

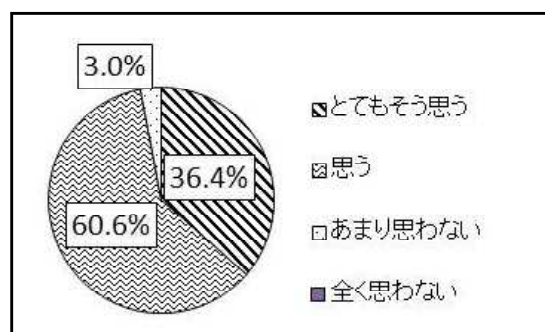


図13 話し合いをすることは、自分の考えを深める手助けになりますか
(N=33)

IV 成果と課題

本研究は「自己の『在り方生き方』を考える力を育成する指導の工夫」をテーマに仮説を立て、その仮説を検証し研究を進めてきた結果、次のような成果と課題が得られた。

1 成果

- (1) ダイヤモンドランキングの活用が生徒の倫理的諸課題に対する理解を深めるのに効果があった。
- (2) ランキング用のカードを作成し、個人やグループでランキングを作り話し合うことは、お互いの考えをより理解し合うこと有効な手段であった。
- (3) 倫理的諸課題についてランキングを用いた授業を踏まえて意見文を書くことは、課題を身近に捉え自己のこれからについて考えることに効果があった。

2 課題

- (1) 学んだことと実社会との関連化を図るために、普段の授業から意識して進める必要がある。
- (2) グループの活動で、1人の生徒の意見で順位が決まってしまうことがあり、話し合い活動における指導の工夫が必要である。
- (3) 順位をつけた理由を明確にできない生徒が多くみられたことから、指導の工夫とワークシートの改善が必要であると考えられる。

〈主な参考文献〉

- 南浦涼介 2011 『思考力・判断力・表現力をつける中学公民授業モデル』 明治図書
 大杉昭英 2010 『高等学校新学習指導要領の展開 公民科編』 明治図書
 小川一郎 1992 『「在り方生き方指導」の理論と実践 高等学校「ホームルーム活動」・公民科「倫理」のために』 清水書院